
黒龍の覚書～MISSING ACE～

闇崎風牙

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

黒龍の覚書〜MISSING ACE〜

【Nコード】

N4727J

【作者名】

闇崎風牙

【あらすじ】

語られるべき物語の終わった世界。それは記憶から薄れていく筈だった。しかし、二つの世界はもう一度、物語を紡ぎ始めた。作者による二次創作の上、更新不定期です。その点ご了承の上、お付き合い願います。

EPISODE..0 目覚め（前書き）

こんばんは、風牙です。

子の小説は、二次創作の上、更新がかなり、不定期です！（何とかしろ）

それでも良い方は、どうぞ。

EPISODE..0 目覚め

十番目は確かに世界を救った。

しかし、世界とは離れていてこそ存在し得る物。

それを渡り歩くなど…有ってはならない事だった。

彼らが世界を渡り歩くほどに、世界は近づき…歪みが出来始めた。

そして、その歪みは世界を隔てる『壁』に穴を開け、他の世界同士を繋げ始めた。

物語とは、巨大な車輪。

それを動かし始めたのは…小さな異世界の齒車。

車輪がどちらに動くのかは…まだ誰も知らない――――

――――

ずきん、と頭が痛んだ。

それに気付いて、身体を起こしかけて。

「痛っ！」

全身に走る痛みと共に、視界が揺らぎ、倒れる。

地面に横たわったまま、暫く眼を閉じ、眩暈が収まるのを待つ。

痛みが弱くなるのを見計らい、近くのベンチに身を預け、力を抜く。

彼が居るのは昼の公園。平日でも人が1人2人は居る所。

しかし――――。

彼の周りには、人影どころか動く物も1つとして見当たらない。

それもそうだろう。此処はミラーワールド。

表の人間なら、入ったらが最後、消えてしまう所。

彼はかすれた声で呟いた。

「何故だ―――？」

何故、俺は此処に居る？

俺は、あいつに、倒されたんじゃないのか？

ズキ、と頭に痛みが走る。
彼は思考を中断する事にした。
リュウガ

――

彼は深い眠りを破られ、不機嫌だった。

まだ一万年も経っていないが、出番らしい。

統制者が言うには、バトルファイトで異例の出来事が起こったらしい。

全員封印でもされたのか、と問うと、それは違うと答える。

もう一人、新たにアンデッドが生まれたと言うのだ。

唐突に沈黙した統制者に向かって、苛々としながら何をするか問う。
統制者は少し間を置き、答えた。

“どんな手立てを使ってもいい。再びバトルファイトを再開させろ”と。

EPISODE..0 目覚め（後書き）

一つ目も終わって無いくせにやってしまいました。

すいません！あっちも頑張りますので、怒らないで下さい！

では、読んで下さった方々、これからも末永くご付き合い願います。

EPISODE..1 拳動

痛みが頭から引き、考えを痛みに邪魔されない様になると、彼は今リュウガの状況を分析し始めた。

「《俺は確かに城戸真司に倒された…筈だが…》

俺は確かに此処に居るし、デッキも破壊されていない。

一体、これはどういう事だ…?》」

神崎が後にオーディンを使ってタイムベントした可能性も無い訳ではない。

しかし、それにしてはライダーの気配は全くと言って良いほど無く、他の奴らの契約モンスターも見当たらない。

「《ライダーバトルが終わったのか?》」

其処まで考え、ふと上を見上げると。

其処には巨大な蜘蛛のような怪物―デイスパイダー―が張り付いていた。

咄嗟に椅子から降り、デッキを構える。

彼を狙って繰り出される糸を避けつつ、鏡面と化した水面にデッキを映す。

彼の腰にベルトが装着される。彼はデッキをベルトに差し込み、叫んだ。

「変身!」

彼の身体を黒いアーマーが覆う。彼はカードを引き抜き、左腕のバイザーに通す。

『STRIKEVENT』

飛んできた糸をかわし、デイスパイダーに火を放つ。

腹に火が当たり、苦悶の叫びを上げるデイスパイダーに追い討ちをかけるが如く、

彼は契約モンスタードラグブラッカーを呼ぶ。

デイスパイダー蜘蛛が体勢を立て直し、リュウガを捉えようとした瞬間。

黒い猛炎が蜘蛛を襲い、焼き尽くす。黒龍は黒く焦げた蜘蛛にかじりつき、捕食する。
腹を十分に満たし、満足げに一声唸り、何処かへと泳いでいく。
変身を解除し、ドラグブラッカーを見送ったリュウガは、デッキをポケットに仕舞い、フラフラと宛ても無く歩いて行った。

一一一

彼は悩んでいた。

バトルファイトの再開をするなら、今近くに感じるジョーカーを襲撃するのが手っ取り早い。

しかし、ジョーカーの周りには“ライダー”とか言う物が居る。下手に手を出せば、封印されかねない。

「《まずはライダーを潰すべき、か…》」

しかし、それらの戦力はまだ知らない。

「《試してみるか。》」

彼は静かに立ち上がる。彼の影が揺らぎ、白い異形ーアルビローチを生み出す。

彼はそれを見送ると、闇へと消えていった。

EPISODE..1 拳動(後書き)

こんばんは風牙です。少し遅れました2話です。

まさかの戦闘シーン。

全く僕は何やってるんだ…？

そしてぼくは悪役好きのようです。
では。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4727j/>

黒龍の覚書～MISSING ACE～

2010年10月11日14時19分発行